

保育者による保育内容の自己評価に関する研究（3）

保育経験年数による自己評価結果の違い

○清水益治 民秋言 千葉武夫 佐藤直之
 (大阪樟蔭女子大学) (白梅学園短期大学) (聖和大学短期大学部) (武蔵野短期大学)

これまでは、「いいえ」が20以上の項目を抽出し、これらの項目について、主任かどうかやクラス担当かどうかによって「はい」の割合がどのように異なるかを明らかにした。主任やクラス担当は保育所長が職務分掌として決定することを考えると、個人の要因以外の部分もあるかもしれない。本研究では、純粋な個人要因として、勤務年数を取り上げて分析した。

方法

調査対象 先報・先々報と同じ。すなわち、9つのブロックにおいて、政令指定都市、中核市を含むように、選定した公立26園、私立27園の合計53園に12部ずつ以下に述べるチェックリストを送付した。

材料 先報・先々報と同じ。すなわち、第三者評価の基準と従来のチェックリストを参考に作成した200項目からなるチェックリスト。いずれの項目に対しても、答え方は「はい」と「いいえ」の2件法。フェイスシートで、経験年数を尋ね、次の10カテゴリーから選んでもらった。1年未満、1年以上5年未満、5年以上10年未満、10年以上15年未満、15年以上20年未満、20年以上25年未満、25年以上30年未満、30年以上35年未満、35年以上40年未満、40年以上。

手続き 当該園長に保育士資格を持つ資格者で、専任職員の方に配付してもらうように依頼した。回収は、調査を依頼した保育士に調査用紙を個別の封筒に入れて密封してもらい、園から一括して返送してもらうようにした。回収された調査票の数は568票（回収率は89.3%）であり、経験年数の分布は表6の通りであった。

チェックリストの区分 通算勤務経験	度数	数 (%)	の 区分
1. 1年未満	48	8.5	5年未満
2. 1年以上5年未満	126	22.2	
3. 5年以上10年未満	98	17.3	5年以上 15年未満
4. 10年以上15年未満	71	12.5	
5. 15年以上20年未満	57	10.0	15年以上 25年未満
6. 20年以上25年未満	73	12.9	
7. 25年以上30年未満	57	10.0	25年以上
8. 30年以上35年未満	36	6.3	
9. 35年以上40年未満			
10. 40年以上	1	0.2	

表6. 通算勤務経験の分布

結果と考察

表1の各項目について、4（経験年数；5年未満、5年以上15年未満、15年以上25年未満、25年以上）×2（回答；はい、いいえ）の χ^2 検定を行った。その結果が有意であった項目に関して、経験年数別の「はい」の割合を、経験年数による差が大きな順に示したものが表7である。

経験年数による差が最も大きかったのは、ケース会議における積極的な発言であり、50ポイント近い差があった。数値を見ると、経験年数を重ねるにつれて、「はい」の割合が高くなっている。ケース会議では様々なケースを経験した保育士の方が発言しやすいのは当然かもしれないが、発言しにくい雰囲気を作られているのであれば、是正する必要がある。

多くの項目は、最も高い値が25年以上であるが、15年以上25年未満の値が最も高い項目もある。すなわち、「子どもの医療や保健に関する問題について、連絡・相談すべきところ（機関）を知っていますか」「子どもの健康管理をマニュアルに基づいて実施していますか」の2項目は、15年以上25年未満から25年以上にかけて、「はい」の割合が低下している（おおむね5ポイント以上の差のみを言及した）。これらの項目は、25年以上の経験者にとっては意識する必要性を感じないのかもしれないが、それでは万が一の時には説明責任を果たすことができない。そのため、コレラの項目の内容については、特に経験者に注意を呼びかける必要がある。

次に増減のパターンについて調べた。経験を積むにつれて「はい」の割合が単調に増えていく項目がほとんどであるが、中には次のようなパターンの項目もあった。5年未満から5年以上15年未満と、15年以上25年未満から25年以上にかけては「はい」の割合が増加するが、5年以上15年未満と15年以上25年未満の間ではほとんど増加が見られない項目：「子どもの喫食状況に基づき、できる範囲で食事の改善に努める」「地域の保育ニーズを把握しようとする」。5年未満から5年以上15年未満にかけては「はい」の割合が増加するが、その後は余り増加しない項目：「おむつ交換時は、1人1人のおむつを交換する度に、手洗いを徹底する」「屋外の遊具の衛生面に配慮する」。5年以上15年未満から15年以上25年未満にかけてのみ「はい」が増加する項目：「国や地方自治体が出す刊行物、インターネット等を通じて保育関係の情報を収集するように心がけている」「子どもが食事

の後かたづけに参加して、食事に興味もてるように配慮する」。このような増加のパターンは、経験年数に応じた研修の必要性を示唆している。

勤務年数は、主任かどうかなど分掌に関係する要因には違いない。しかしながら、経験を積みにつれて意識し

べき項目が変わってくることを明らかにできたのは、本研究の功績であろう。今後はさらに様々な要因について分析することにより、それぞれの保育士にあった研修計画を立てることに資する資料を提供したい。

表7. 経験年数による自己評価の違い

第三者番号	項目		5年未満	5年以上 15年未満	15年以上 25年未満	25年以上	差
5	ケース会議などの際、あなたは積極的に発言していますか	N	170	156	125	86	49.6
		%	37.6	63.5	79.2	87.2	
20	子どもの権利擁護に関する研修に参加したことがありますか	N	174	163	124	91	46.1
		%	25.3	44.2	55.6	71.4	
33	園が保育所の役割を果たすために必要な地域の関係機関の役割やその業務内容について知っていますか	N	165	165	120	89	35.9
		%	47.3	56.4	76.7	83.1	
31	育児相談など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを担当していますか	N	165	161	124	87	35.8
		%	19.4	31.7	46.8	55.2	
20	子どもの人権への配慮やお互いを尊重する心を育てるための具体的な取り組みを行っていますか	N	168	158	124	88	35.4
		%	45.2	60.1	74.2	80.7	
34	子どもの医療や保健に関する問題について、連絡・相談すべきところ(機関)を知っていますか	N	169	164	125	91	32.1
		%	63.9	77.4	96.0	91.2	
12	子どもの寝具の消毒を定期的に行うよう配慮していますか	N	171	164	122	92	26.9
		%	65.5	72.6	80.3	92.4	
17	地域の公共機関を利用するなど、子どもが社会体験を得られる機会をつくっていますか	N	172	166	127	89	26.3
		%	43.0	61.4	69.3	68.5	
24	保護者に、障害児に関する適切な情報を伝えるための取り組みを行っていますか	N	57	83	93	68	23.7
		%	59.6	72.3	77.4	83.3	
11	子どもの喫食状況に基づき、できる範囲で食事内容の改善に努めていますか	N	173	156	121	87	22.6
		%	63.6	78.2	79.3	86.2	
22	おむつ交換時は、一人一人のおむつを交換をする度に、手洗いを徹底していますか	N	89	125	106	79	22.3
		%	55.1	76.8	77.4	72.2	
24	就学など将来に向けて、保護者が子どもの方向を決めやすいように相談に応じたり、情報提供をしていますか	N	58	87	97	65	21.0
		%	74.1	71.3	82.5	92.3	
16	子どもが自由に素材や用具などを自分で取り出して遊べるように工夫していますか	N	174	167	126	89	21.0
		%	65.5	73.1	78.6	86.5	
18	クレヨン・絵の具・粘土・紙など様々な素材を子どもたちが自分で使えるように工夫していますか	N	171	168	127	87	20.7
		%	64.3	75.6	80.3	85.1	
30	地域の保育ニーズを把握しようと努めていますか	N	165	161	124	91	20.1
		%	66.7	77.0	76.6	86.8	
11	調理作業をしている場面を子どもたちが見たり、言葉を交わすことなどを通して、興味もてるよう配慮していますか	N	173	167	127	92	20.0
		%	50.9	56.3	70.9	66.3	
6	子どもの健康管理をマニュアルに基づいて実施していますか	N	170	162	120	91	19.6
		%	62.9	74.7	82.5	73.6	
11	子どもが食事の配膳に参加して食事に興味もてるよう配慮していますか	N	174	166	124	90	19.1
		%	60.9	66.9	73.4	80.0	
14	子どもの質問に対して「待ってて」「あとで」など言わずに、なるべくその場で対応するようにしていますか	N	174	168	127	90	19.0
		%	64.4	75.0	79.5	83.3	
	国や地方自治体が出す公刊物、インターネット等を通じて保育関係の情報を収集するように心がけていますか	N	171	167	123	87	17.2
		%	33.3	37.7	47.2	50.6	
11	時には戸外で食べるなど、様々な食事のスタイルを工夫していますか	N	174	166	125	92	17.1
		%	51.7	63.3	68.8	67.4	
11	子どもが食事の後片づけに参加して食事に興味もてるよう配慮していますか	N	174	165	127	91	16.6
		%	72.4	76.4	86.6	89.0	
	専門書などを読むことを通じて知識の修得に努めていますか	N	172	167	125	88	16.0
		%	71.5	74.9	73.6	87.5	
13	保育室に一人一人の子どもがくつろいで落ち着ける場所を用意していますか	N	173	164	124	89	16.1
		%	65.9	67.1	79.8	82.0	
12	屋外の遊具の衛生面に配慮していますか	N	170	167	122	90	12.7
		%	67.6	80.2	80.3	78.9	